

痛みやしびれ 診断重要

病院の実力

～神奈川編 152

腰の病気

今月は「腰の病気」を取り上げる。脊椎脊髄専門医のいる医療機関の「腰部脊柱管狭窄症」や「腰部椎間板ヘルニア」の手術実績などを掲載した。

背骨(脊椎)の中には、脳からつながる中枢神経(脊髄)が通っている。椎間板ヘルニアは、背骨と背骨の間でクッションの役割をしている椎間板が飛び出して神経を圧迫する病気。20～40歳

痛みやしびれを下半身にも感じるときは「腰部脊柱管狭窄症」や「腰部椎間板ヘルニア」の可能性がある。まずは病態を確認するため、レントゲン、コンピュータ断層撮影法(CT)、磁気共鳴画像(MRI)などで精密に検査する。腰部脊柱管狭窄症は高齢者に多く、歩行中に尻から足先に

「脊柱管狭窄症」は、加齢に伴い骨が変形するなどして神経の通り道(脊柱管)が狭くなり、神経が圧迫されて起こる。腰痛や足の痛み、しびれ、まひなどの症状が出る。

代に多い。多くは保存療法で改善するが、痛みやしびれが長引き、悪化する場合は手術を検討する。手術と保存療法の中間的な治

療として、椎間板に薬を注射しヘルニアを縮小させる「椎間板内酵素注入療法」が2018年に保険適用された。手術に比べると身体への負担は少ないが、生涯に1回しかできない。

人間は20歳を過ぎると椎間板が劣化しはじめるため、誰でもあっても発症しうる。血流を良くする内服薬、ブロック注射、体幹トレーニングなどの保存療法で対処できるが、根本的な解決にはならない。我慢しすぎてダメージを蓄積すると、手術しても痛みを取りきれないことがある。

我慢せず早めに治療を

新横浜スパインクリニック



遠田 慎吾 院長

一方の腰部椎間板ヘルニアは、スポーツや肉体労働をする男性に多く見られ、進行が早い。悪化すると、排せつ障害や下半身のまひに至ることもある。

どちらも、日常生活に支障が出る場合は手術を勧めている。当院には、保存療法を何年も行ったが改善せず、根本的治療のため手術を受けに来る方が多い。大事なのは症状の原因を取り除くこと。一人ひとり病態は異なるため、オーダーメイドのような治療法を取り、体への負担のかからない低侵襲で、早い回復につながる術式を選択する。

歩くのもままならない痛みやしびれは外出の機会を奪う。結果的に家にこもりがちになり、つらい思いをされている方も少なくない。改善の選択肢が多いうちに、我慢せず受診してほしい。

病院の実力「腰の病気」

医療機関別2019年手術・治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	腰部脊柱管狭窄症手術		椎間板ヘルニア	
	うち椎弓切除術・椎弓形成術(人)	うち脊椎固定術(人)	手術・椎間板摘出術(人)	椎間板内酵素注入療法(人)
新横浜スパインク	296	204	92	60
伊勢原協同	223	140	83	25
新百合ヶ丘総合	205	123	82	98
横浜労災	181	81	100	59
市立川崎	160	90	70	28
横浜南共済	153	8	145	20
東海大	148	38	110	46
湘南藤沢徳洲会	146	27	119	16
済生会横浜市東部	140	92	48	23
総合新川橋	139	20	119	7
北里大	133	67	66	19
横浜市大病院	130	30	100	10
昭和大横浜市北部	114	43	71	13
昭和大藤が丘	109	54	55	10
横浜市立脳卒中・神経脊髄セ	108	13	95	17
湘南鎌倉総合	107	81	26	22
聖マリアンナ医大	94	34	60	18
聖マリアンナ医大横浜市西部	94	24	70	3
横浜掖済会	87	41	46	11
横浜市立みなと赤十字	84	42	60	45
横須賀共済	74	37	37	17
東名厚木	74	33	41	20
藤沢湘南台	67	30	37	54
横浜市大市民総合医療セ	60	10	50	4
藤沢市民	52	25	27	22
厚木市立	52	36	16	11
横浜新都市脳神経外科	51	35	17	9
小田原市立	41	19	22	9
平塚共済	40	19	21	13
東戸塚記念	29	19	10	18
横浜市立市民	26	16	10	13
川崎幸	5	3	2	0

「セ」はセンター、「ク」はクリニック、「一」は無回答または不明

全国の調査結果は20日の「安心の設計面」に掲載しました。